

要 約

試験委託者

環境省

表 題2-アミノエタノールのヒメダカ (*Oryzias latipes*) に対する初期生活段階毒性試験試験番号

A070032

試験方法

本試験は OECD Guideline for Testing of chemicals 210 (1992) “Fish, Early-Life Stage Toxicity Test” に準拠して実施した。

- 1) 供試生物 : ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 2) 暴露方式 : 流水式
- 3) 暴露期間 : 41 日間 (受精卵から暴露し、対照区の孵化率が 70%以上になった日の 30 日後まで)
- 4) 試験濃度 : 対照区
(設定値) 濃度区 1 0.20 mg/L
濃度区 2 0.53 mg/L
濃度区 3 1.4 mg/L
濃度区 4 3.8 mg/L
濃度区 5 10 mg/L 公比 : 2.7
- 5) 試験液供給量 : 約 48 L/容器・日, 試験容器内水量 : 約 2.5 L
(換水率 : 約 19 回/日)
- 6) 連 数 : 3 容器/試験区
- 7) 供試生物数 : 60 個体/試験区 (20 個体/容器)
- 8) 試験温度 : 卵・胚期 : $24 \pm 1^{\circ}\text{C}$
仔魚・稚魚期 : $23 \pm 2^{\circ}\text{C}$
- 9) 溶存酸素濃度 : 飽和濃度の 60%以上 (エアレーションなし)

- 10) p H : 調整なし
- 11) 照 明 : 室内光, 16 時間明 (1000 lux 以下) / 8 時間暗
- 12) 給 餌 : 仔魚・稚魚に対してブラインシュリンプ[®] 孵化幼生を 1 日 1~2 回飽食量与えた。
- 13) 分 析 法 : 高速液体クロマトグラフ質量分析計 (LC/MS)

試 験 結 果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果, 各濃度区の測定値は暴露期間を通じていずれも平均測定値の±20%以内に維持された。また, 平均測定値の設定値に対する割合は 89~105%であった。結果の算出には平均測定値を用いた。

2) 最小作用濃度 (LOEC) : 3.55 mg/L (濃度区 4)

3) 最大無作用濃度 (NOEC) : 1.24 mg/L (濃度区 3)